

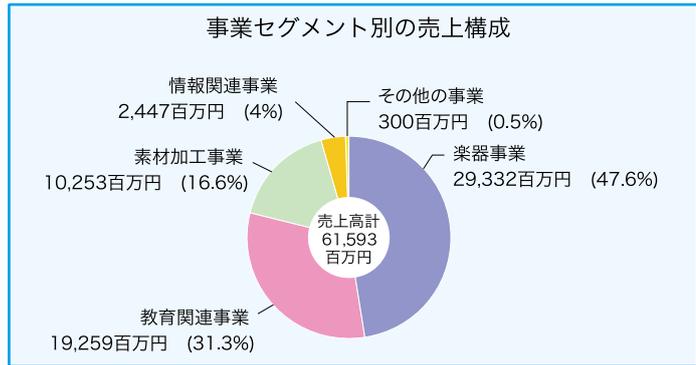


環境社会報告書 2009

カワイグループの事業と会社の概要

社名 株式会社河合楽器製作所
 本社 静岡県浜松市中区寺島町 200 番地
 創立 1927 年（昭和 2 年）8 月 9 日
 設立 1951 年（昭和 26 年）5 月 15 日
 代表者 代表取締役社長 河合弘隆
 資本金 66 億円（2009 年 3 月末現在）

年度		2006 年度	2007 年度	2008 年度
売上高	単独(百万円)	59,554	61,308	52,372
	連結(百万円)	68,234	71,029	61,593
従業員数	単独(名)	1,955	1,878	1,775
	連結(名)	2,916	2,888	2,797



当社グループの主な事業

楽器事業

ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、楽器付属品、楽器玩具の販売及び楽器調律・修理の役務提供業務

国内での販売

全国直営店・販売代理店
 (株)ディアパソン 他

海外での販売

カワイアメリカコーポレーション
 カワイヨーロッパ GmbH
 カワイカナダミュージック Ltd.
 カワイオーストラリア PTY.Ltd.
 河合貿易（上海）有限公司
 カワイ UK Ltd.
 カワイオランダ B.V
 海外販売代理店及び商社

楽器の調律・修理

(株)河合楽器製作所 調律サービス部

楽器の国内での製造

(株)河合楽器製作所 竜洋工場
 メルヘン楽器(株)

楽器の海外での製造

ミディミュージックセンター Inc.
 PT. カワイインドネシア
 カワイアジアマニュファクチャリング SDN.BDH.
 河合楽器（寧波）有限公司

教育関連事業

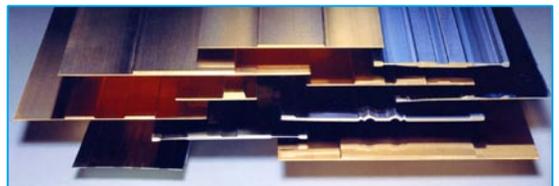
音楽教室・体育教室の運営、教材販売・楽譜・音楽教育用ソフトの製造及び販売



素材加工事業

電子電気部品用金属材料加工、自動車部品用材料加工、防音室・音響部材の製造及び販売

金属異形圧延加工品の製造 カワイ精密金属(株)
 自動車部品用材料の製造 (株)カワイハイパーウッド
 防音室・音響部材の製造 (株)カワイ音響システム



情報関連事業

OA 機器の販売・保守及びコンピュータソフトウェアの開発販売

(株)カワイビジネスソフトウェア

その他事業

金融関連事業、保険代理店事業 (株)カワイアシスト

編集方針

内 容

カワイグループにおける環境活動側面に加え 2003 年版からはコンプライアンス等社会的側面を掲載し企業における社会的責任の視点を充実させ 2004 年からタイトルも「環境報告書」から「環境社会報告書」に変更いたしました。

なお経済側面につきましては概要を前頁に記載しました。カワイグループの事業内容の詳細は当社ホームページをご参照願います。

対 象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地域住民・NGO、行政・国際機関など多様なステークホルダーの皆様を対象としています。

2009 年版について

- ・出来得る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、皆さまにカワイの取組をわかりやすく伝えるように努めました。
- ・事業活動に伴う環境配慮については環境側面ごとにまとめました。
- ・関連資料は資料編にまとめました。
- ・インターネット環境の普及、紙資源の節約を考慮し、紙媒体ではなく、ホームページ上での公開とさせていただきます。

報告対象期間

- ・2008 年度（2008 年 4 月～2009 年 3 月）を主体としていますが、一部重要な事項については 2009 年 4 月以降の最新情報も含んでいます。
- ・集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

報告対象組織

- ・(株)河合楽器製作所 本社／竜洋工場
- ・メルヘン楽器(株)・(株)カワイハイパーウッド
- ・カワイ精密金属(株)

〈目 次〉

	ページ
カワイグループの事業と会社の概要	1
編集方針	2
社長コミットメント	3
カワイの経営の理念・行動指針	
カワイグループのあゆみ	4
◎環境報告	
カワイの環境への取組	5
地球環境憲章 / 環境方針 / 環境推進組織	
2008 年度の環境目標と実績	6
事業活動に伴う環境配慮	
温暖化対策	7
廃棄物削減・再資源化	9
グリーン調達	10
環境配慮製品	11
環境パフォーマンス	
マテリアルバランス	12
◎社会性報告	
経営計画	13
コーポレート・ガバナンス	15
株主・投資家の皆様とともに	17
お客様との関係	18
社会貢献活動	
コミュニケーション	
地域社会への参画	20
情報発信	22
◎資料編	
資料	
環境負荷サイト別一覧	23
第三者意見	24
2009 年度アンケートのお願い	25

カワイホームページアドレス	
カワイホームページ	http://www.kawai.co.jp/
環境への取り組み	http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp
IR サイト	http://www.kawai.co.jp/ir/
健康事業	http://www.kawai.co.jp/kenkou/
文化貢献事業	http://www.kawai.co.jp/company/activity/culture.asp
教育事業	http://www.kawai.co.jp/school/
カワイ音楽教室	http://www.kawai.co.jp/school/music/

社長コミットメント

カワイブランドの確立をめざして

のちに楽器王とも称された当社初代社長河合小市は、「この手で、世界一のピアノをつくりたい」という理想を胸に、自らの天分と情熱のすべてをピアノづくりに捧げ、当社の礎を築きました。以来、当社はより良い楽器づくりをめざして企業活動を続けてまいりました。また、音楽にふれる喜び、感動を人々にとの願いから、楽器づくりにとどまらず、音楽教育、音楽文化の普及・育成にも尽力してまいりました。

皆様のおかげにより現在では事業内容も、ピアノ・電子楽器の製造から、音楽教室を初めとした教育関連事業、ピアノ製造技術から派生した金属事業、塗装事業、音響事業、情報関連事業へと多岐に広がってまいりました。しかし、欧米の老舗メーカーに見られますように、ピアノブランドの確立は100年事業であり、今回の歴史的な未曾有の経済危機を乗り越えて、世界で認められる確かなブランドとして確立していくためには更なる精進が必要であります。

現在、当社グループは、2007年4月より①経営構造の革新②持続可能な成長③恒常的な利益確保を基本方針とした「第2次中期経営計画」(2007年4月～2010年3月)に取り組んでおります。2年目にあたる2008年度は売上高、利益ともに遺憾ながら計画達成には至りませんでした。しかし、同計画で掲げました戦略に基づく諸施策につきまちは、ほぼ計画どおりに推移しておりますので、将来に向けた安定的な利益確保と成長戦略への着実な転換を図ることで次の時代に備えて行こうと考えております。

また、当社グループは、CSR経営の重要性を認識し、CSRを推進することで企業価値を向上させる取り組みを「第2次中期経営計画」の施策の一つとしており、「環境への配慮」ではCO₂削減、廃棄物削減、インドネシアでの植林活動など社会的な課題に継続的に取り組んでおります。

社会や産業の構造が大きく変化し続ける新しい時代に向けて、これからも皆様の生活、文化、環境に貢献していくためにより広い分野で新たな感動づくり、ブランドづくりをめざしてまいり所存であります。

今後とも皆様には当社の活動へのご理解とご協力をいただけますようお願いするとともに、この環境社会報告書がステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとなれば幸いです。

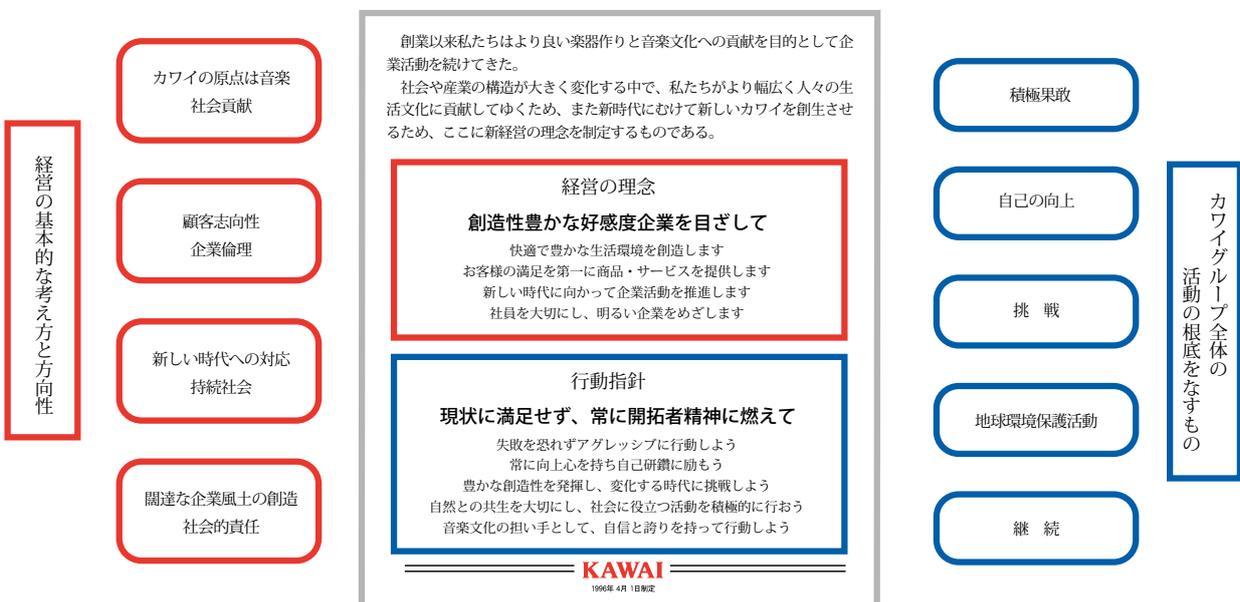
どうぞ忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



取締役社長

河合弘隆

カワイの経営の理念・行動指針



カワイグループのあゆみ

カワイグループの事業沿革と環境への取り組みの歴史を記載しました。

事業沿革

- 1927 河合小市 河合楽器研究所を創立
ピアノの製造・販売を開始
- 1929 河合楽器製作所と改称
- 1935 合名会社河合楽器製作所と改組
- 1951 株式会社河合楽器製作所と改組
- 1955 河合小市 逝去 河合滋 社長に就任
- 1956 カワイ音楽教室を創設
- 1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成
- 1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立
- 1966 カワイ音楽教室中央講師養成所
(カワイ音楽学園)を創設
- 1967 カワイ体育教室を創設
- 1976 西ドイツにカワイドイチュランド GmbH を設立
- 1979 西ドイツにカワイヨーロッパ GmbH を設立
- 1980 金属圧延加工のカワイ精密金属(株)を設立
- 1980 『森の中の緑の工房』 竜洋工場完成
- 1981 オーストラリアにカワイオーストラリア PTY.Ltd. 設立
- 1984 (株)カワイビジネスソフトウェア設立
- 1988 アメリカにメディアミュージックセンター Inc. を設立
- 1989 河合弘隆 社長に就任
- 1991 マレーシアにカワイアジア
マニュファクチャリング SDN.BHD を設立
- 1996 新経営の理念、行動指針制定
- 1997 カワイ精密金属(株)浜松事業所 ISO9002 認証取得
- 1998 (株)カワイハイパーウッド設立
- 2001 インドネシアに PT. カワイインドネシアを設立
- 2002 中国に河合貿易(上海)有限公司を設立
- 2002 カワイ倫理規範、倫理行動規準制定
- 2004 中国に河合楽器(寧波)有限公司を設立
- 2005 竜洋工場 ISO9001 認証取得
- 2007 創立 80 周年
電子ピアノ組立を行うカワイインドネシア第 3 工場設置
中国上海市内にカワイ音楽教室第 1 号教室開設
- 2008 河合楽器(寧波)有限公司 ISO9001 認証取得
PT. カワイインドネシア第 3 工場 ISO9001 認証取得
- 2009 国内ピアノ生産工程を竜洋工場に統合
PT. カワイインドネシア第 1・第 2 工場 ISO9001 認証取得

環境活動



竜洋工場航空写真

- 1975 生産技術部内に公害課設置 カワイの環境元年
- 1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理
をスタート

1980 『森の中の緑の工房』 竜洋工場完成

- 1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決定
- 1994 全社的な推進組織の地球環境委員会発足
- 1996 環境推進室に名称変更
- 1997 **竜洋工場で ISO14001 認証取得 楽器業界で世界初**
- 1997 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
- 1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得
- 1998 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として
中部通商産業局長表彰
- 1999 **メルヘン楽器で ISO14001 認証取得**

- 2001 **タイプⅢ環境ラベル「製品環境宣言」 JEMAI 開示**
- 2001 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
- 2002 環境経営学会「環境経営格付」評価
- 2003 工場統廃合によるインフラの整備
- 2003 木屑ボイラーの廃止

- 2005 **竜洋工場が緑化優良工場として
(財)日本緑化センター会長奨励賞 受賞**
- 2006 河合楽器が静岡県緑化推進協会から
「緑の募金」の感謝状
木材調達ガイドラインの開示
- 2007 **カワイハイパーウッドでエコアクション 21 認証取得
「カワイの森」インドネシア植林事業開始**

- 2008 産業廃棄物適正処理推進功労者に対する
静岡県知事褒賞 受賞

カワイ地球環境憲章に定める基本理念、行動指針を具体化した環境方針に基づいてオールカワイの推進組織により環境保全活動を展開しています。

地球環境憲章と環境方針

地球環境憲章

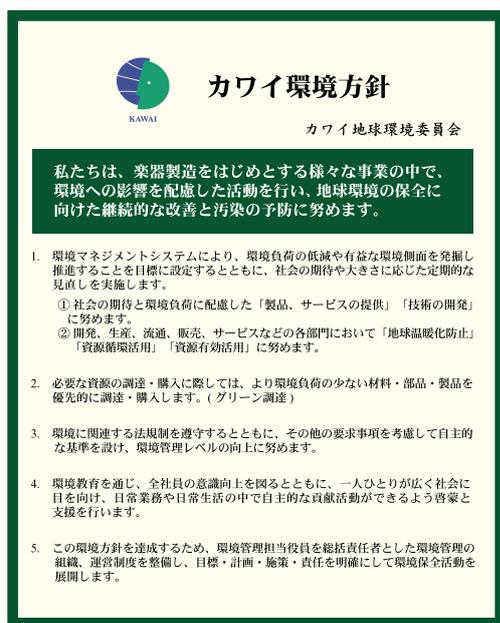
カワイはすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感の道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定しました。



カワイ環境方針

河合楽器地球環境委員会では「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しており、今年度も見直しを図りました。《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進します。

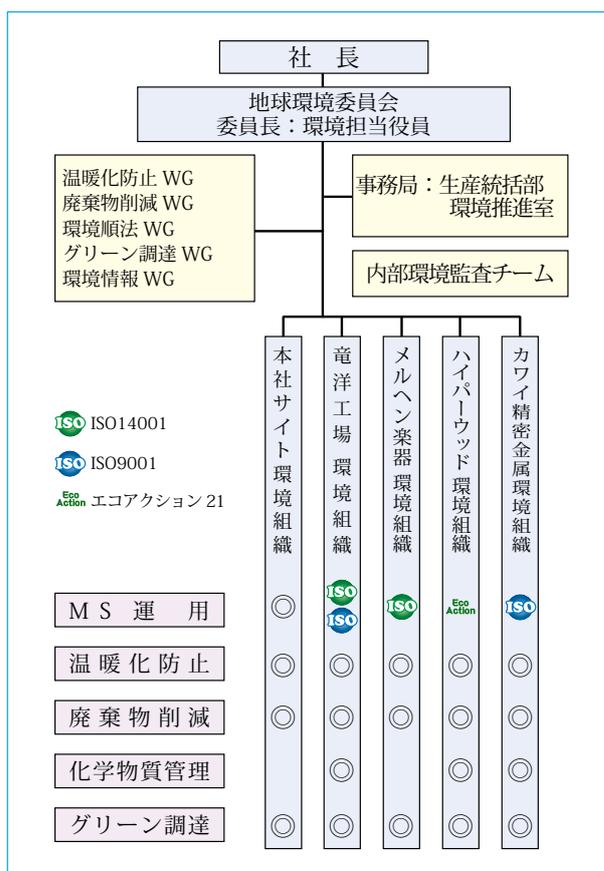


詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp>

カワイの環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目的・目標を設定し活動しています。毎年環境月間の6月には各サイトの昨年度実績及び当年度の目標を報告する全体会議を開催しております。



EMS:

環境マネジメントシステムの略 事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくシステム。国際規格のISO14001、環境省が策定したエコアクション21などがある。

MS: マネジメントシステムの略

WG: ワーキンググループ

環境監査

当社では、ISO14001規格で要求されている継続的改善のP・D・C・Aをまわすため、定期的に「外部審査」「内部環境監査」を実施しています。

外部審査

認証取得サイトでは、認証機関により毎年のサーベランス審査、3年毎の更新審査でシステムが有効に機能していることの審査を受けています。

CO₂ 排出量・廃棄物量ともに目標を達成しています。

2007年度から2009年度の3カ年計画

地球温暖化防止を重点課題と考え、CO₂ 排出量を2006年より15%削減することを目標としております。この目標を達成しますと当社のCO₂ 削減量は、京都議定書の基準年1990年から32%の削減となります。

- ・地球温暖化防止 CO₂ 排出量 15%削減 2009年度目標(基準年2006年度)
- ・資源循環活用 廃棄物量 15%削減 2009年度目標(基準年2006年度)

2008年度の主な環境目標と実績

各環境組織の主な目的・目標に「生産効率向上」「不良率削減」を掲げ、活動を取り組んでまいりました結果、初年度に引き続き目標を達成することができました。

項目	基準年	2007年度 実績	2008年度		
			目標	実績	評価
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量(総量)	2006	-3%	-10%	-21% (◎)
	CO ₂ 排出量(原単位) <参考>	2006	-10%	—	-14% —
資源循環活用	廃棄物(埋立・焼却) 排出量(総量)	2006	-30%	-12%	-44% (◎)
	廃棄物(埋立・焼却) 排出量(原単位) <参考>	2006	-32%	—	-38% —

原単位：売上高100万円に対する指標

◎ 達成

当社のエネルギー管理指定工場

第一種エネルギー管理指定工場	対象工場なし
第二種エネルギー管理指定工場	竜洋工場、カワイ精密金属 松本工場

第二種エネルギー管理指定工場は、自主エネルギー削減計画を策定し、エネルギー削減に取り組んでいます。

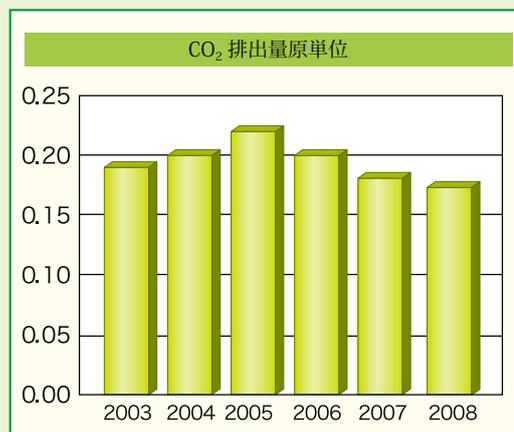
環境経営指標

当社では、環境経営指標としてCO₂ 排出量を当社グループの売上高にて除した指標を用いています。

2005年度より毎年着実に減少し、環境経営が順調にすすんでいます。

また、廃棄物に関して、埋立・焼却処理を行う量は2008年度で2.39kg/百万円と2006年度の62.4%にまで減少しています。

指標	単位	基準年	前年度	当年度	基準年比
		2006	2007	2008	[%]
CO ₂ 排出量原単位	ton-CO ₂ /百万円	0.21	0.19	0.18	85.7%
エネルギー原単位	GJ/百万円	3.48	3.14	2.94	84.5%
電力量原単位	GJ/百万円	2.91	2.64	2.52	86.6%
廃棄物(埋立・焼却) 原単位	kg/百万円	3.83	2.59	2.39	62.4%
廃棄物(リサイクル) 原単位	kg/百万円	24.08	16.58	16.93	70.3%



CO₂ 排出量 1990 年（京都議定書基準年）から 37%削減。

地球温暖化防止への取組（CO₂ 排出量）

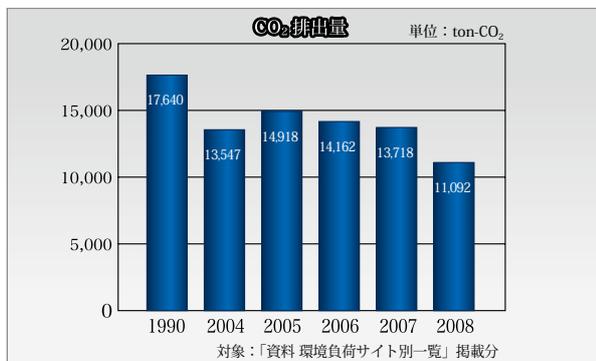
当社グループでは地球温暖化対策を環境経営の重点項目と位置づけ、工場や本社事務所のエネルギー使用による CO₂ や物流による CO₂ の排出削減を目的・目標に掲げ活動しています。

工場の統廃合により、京都議定書の基準年である 1990 年度対比で、2008 年度は CO₂ の排出量は 37%削減しています。京都議定書の日本の目標値 6%削減に対して当社グループは大幅に目標値を上回っています。

また、当社グループでは 2007 年度からの 3 カ年計画において、より CO₂ を減らすことを目指し、2009 年度までに 2006 年度を基準として 15%の CO₂ 削減を目標に掲げました。3 カ年計画の 2 年目の 2008 年度は、2006 年度対比で目標値の 10%削減に対し実績として 21%の削減を行い、目標を達成することができました。

当社グループの工場では、当社竜洋工場とカワイ精密金属松本工場の 2 工場が第二種エネルギー指定管理工場として、自主的に CO₂ 削減計画を策定し、CO₂ 削減に取り組んでいます。

また、改正省エネ法の施行に伴い、各支社や営業所も含めた消費電力削減の対応も行っています。夏期には「ノーネクタイ」「ノー上着」活動を実施し、オフィスの室内設定温度を上げるクールビズ運動も展開しています。



CO₂ の吸収活動（植林活動）の推進

・「森の中の緑の工房」

当社は、1980 年に「森の中の緑の工房」を目指し竜洋工場を建設しました。工場団地の造成地に工場周辺や構内へ当初約 20,000 本の苗木の植林を行い、引き続き日々植林活動を行い、現在までに約 26,000 本の植林を行ってきました。工場周辺の木々は 29 年の歳月を経て、大きな樹木に生長し、「森の中の緑の工房」の名に相応しい工場となりました。

この活動が評価され 2005 年緑化優良工場として（財）日本緑化センター会長奨励賞を受賞致しました。



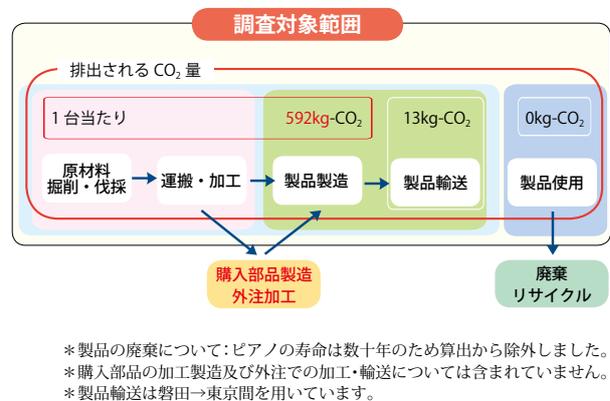
・海外植林活動

この精神を受け継ぎ、海外生産拠点のインドネシアにおいて当社グループ社員の寄付により「カワイの森」として 2007 年より植樹活動を行なっております。1 年間 50 ヘクタールの土地へ約 40,000 本の植樹を行い、5 年間で 250 ヘクタール 20 万本の木を植樹していきます。当社計算では、4 年後にはインドネシアの植林により年間 3,667 トンの CO₂ の吸収を見込んでいます。



主な製品の LCA(ライフサイクルアセスメント) の調査

製品を作るために資源の採取から部品、製品を作るために必要な CO₂ 量及び製品を使用し、廃棄までに CO₂ をどのくらい排出するのかの調査を当社の主な製品のグランドピアノ (RX-3) について行ない、結果は、次のとおりとなりました。



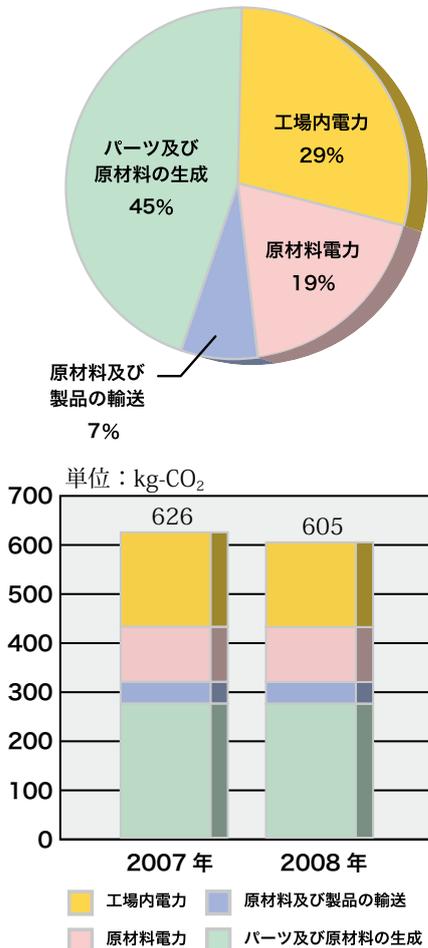
当社の主製品のピアノは、一般の電化製品、自動車と異なり製品の使用時に排出される CO₂ はありません。また、製品寿命は当社調律師によるアフターサービスを実施しており、一般に数十年と長く、また当社リサイクルセンターにてリユースを行なうことで、寿命はさらに長くなっています。

当社製品は、製造までの CO₂ 排出量が製品寿命の総 CO₂ 排出量と考えることが出来ます。

グランドピアノ 1 台が生涯に排出する CO₂ の量 605kg-CO₂ は、ガソリンの消費量約 262 リットルに相当します。グランドピアノを 10 年間使用するとしますと、年間換算でガソリン 26 リットルの消費量、月に約 2.2 リットルの消費量に相当します。

LCA からみますとピアノの CO₂ 排出量は製品重量に比較して、少ないといえます。

グランドピアノ RX-3 が排出する CO₂ の構成比



*この LCA 算定には、財団法人 産業環境管理協会のライフサイクルアセスメント実施ソフト「JEMAI-LCA Pro」を用いました。

※ LCA ライフサイクルアセスメント

原材料採取から製造、流通、使用、廃棄に至るまでの製品の一生（ライフサイクル）で、環境に与える影響を分析し、総合評価する手法。製品の環境分析を定量的・総合的に行う。

(平成 19 年版 環境 / 循環型社会 白書 環境省より)

当社は、工場の CO₂ 排出量も少なく、生産している製品の CO₂ 排出量も少ないという特徴があります。しかし、更なる CO₂ 排出量削減のため

- ・工場の生産活動による CO₂ 削減の取り組み
- ・植林活動による CO₂ 吸収の取り組み

を推進しています。

・冷暖房の省エネ対策

カワイ精密金属(株)浜松工場では、工場の屋根を 2 重にして断熱効果を高め、冷暖房にかかるエネルギーを削減しました。

夏季には午後の最高気温時で約 5℃、1 日平均して約 2℃ 温度を下げることができ、冷房にかかるエネルギーの削減につながりました。



対策前



対策後

・エコアクション 21 の活動推進について

(株)カワイハイパーウッドでは、エコアクション 21 として、小集団活動（サン Q C 活動）に不良削減や省エネ推進を取り上げ、より活動の活発化を図っています。2 月度は「省エネ・環境改善」をテーマとし、社内協力工場も含めた 13 グループにて改善例を競い合いました。



改善前



改善後



各検査台照明 SW ヒモにつけた消し忘れ注意カード

受入検査用の作業台は 5 台まで削減しました。

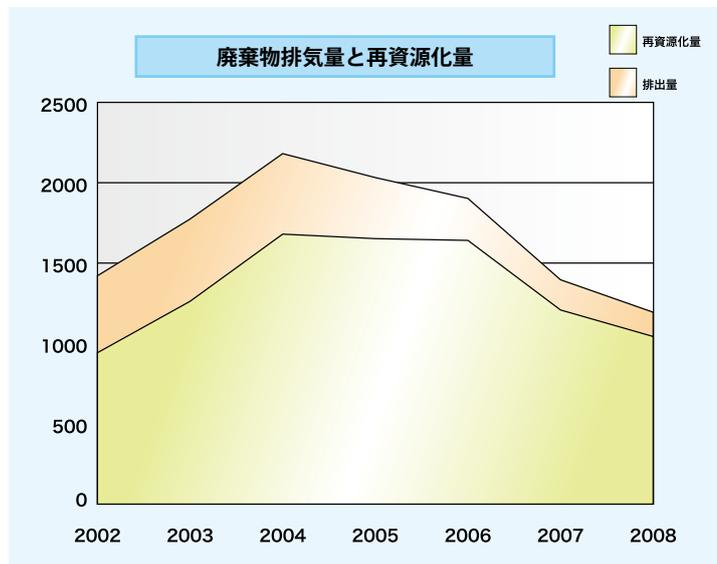
廃棄物排出量の削減

廃棄物削減と再資源化

廃棄物の削減と徹底した分別回収による再資源化を図ることが重要な使命と認識し活動しています。

2003年度から大気汚染の防止やダイオキシン対策特別措置法の順守を目的に木屑ボイラーを廃止したため今まで燃料としてサーマルリサイクルされていた木屑や木粉が廃棄物扱いとなったため廃棄物排出量が大幅に増加しました。

この対策として、木屑の固形化をはじめとした活用方法の多方面への働きかけを行い、現在木屑等は全て再資源化（製紙原料、ボード原料、燃料用 他）しており、グループ全体の再資源化率は87%となっています。



	年度	2004	2005	2006	2007	2008
再資源化量	ton	1,680	1,652	1,641	1,208	1,043
排出量	ton	2,181	2,032	1,902	1,396	1,194
再資源化率	%	77%	81%	86%	87%	87%

リサイクル・リユースの取組

生産者拡大責任と循環型事業として㈱ピアノリサイクルを98年に設立し、現在は当社竜洋工場リサイクルセンターが、お客様のニーズにこたえています。当社では熟練の技術者の手により古いピアノのリユースに取り組んでいます。

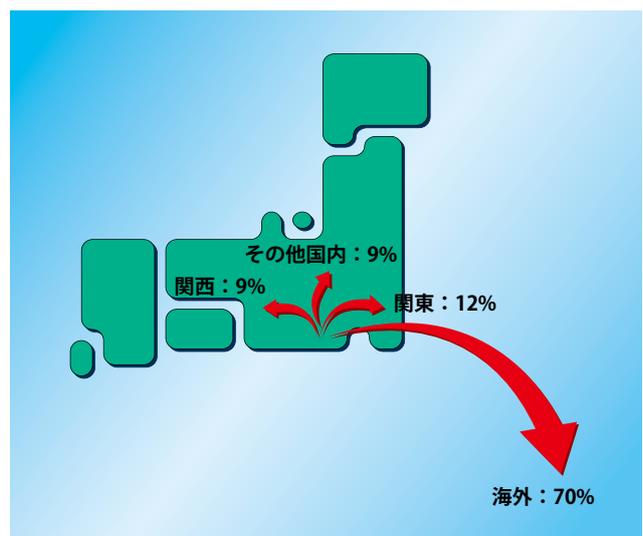
ピアノは「もの」であるとともに「楽器」であり、そこにはお客様の「感動」した心、様々な「思い出」を残しながら、伴に人生を歩んできました。

元のピアノの基本を残して、豊富な経験に裏づけされた高い技術力で塗装やメカニックの修理を施し、「思い出」は残しながら、まるで新品のように生まれ変わります。生まれ変わったピアノとともに新たに使用する人の「思い出」が紡ぎ出されます。

歴史的ピアノの修復では、現存しない部品を手作業で製作することから始まり、熟練の技術者により当時のピアノに蘇らせています。

今では弾く人もいなくなった思い出のピアノ、使わなくなったピアノを再生し、お客様に満足していただいています。

2008年度には約1,000台のピアノがリサイクルされました。そのうちの約7割が輸出されています。



グリーン調達の推進方策

グリーン調達

当社では調達・購入にあたり当社の定める地球環境委員会環境方針に基づき、必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク（GPN）の基本原則に準じグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減し、地球環境の保全と循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。調達基準の共通事項を次のとおり定めています。

ライフサイクルにおける環境配慮設計がされていること

下記の環境に配慮した取組がなされていること

- ・環境汚染物質への配慮 / 省資源 / 省エネルギー
- ・天然資源への配慮 / 長期使用性 / リユース可能性
- ・リサイクル可能性 / 再生材料等の利用
- ・処理処分容易性

またサプライヤー選定時の配慮事項も次のよう定め購買部門よりお取引先に対し対応をお願いしています。

- ・環境マネジメントシステムを構築し運用していること
- ・省資源、省エネ、化学物質管理、グリーン購入等への取組がなされていること
- ・梱包材についても環境に配慮していること
- ・環境情報を積極的に公開していること

 **カワイグリーン調達ガイドライン**

カワイ地球環境委員会

カワイは調達・購入にあたり地球環境委員会環境方針に基づき、必要な資源の調達・購入に際してはより環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク（GPN）の基本原則に準じグリーン調達を推進し環境負荷を総合的に低減し、地球環境の保全と循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献しています。

1 グリーン調達の基本方針

- ① 調達の必要性を十分に考慮し、
- ② 品質や価格に加え長期にわたる環境負荷が大きい製品やサービスも、
- ③ 環境負荷の削減に努める事業から優先的に調達する。

2 適用範囲

- ・事務所用品、部品、原材料、設備などカワイグループが調達する全ての物品・サービス。
- 事務用品で使用する一般品（印刷、文具、コンピュータ等機器、消耗品、消耗品等）
- カワイ製品（写真機など）に用いる部品・材料（消耗品、消耗品等を含む）
- サービス等（建設、その他の設備）

3 グリーン調達基準

- 1) 調達基準
 - ・法律、関係団体の基準、社内基準（製品設計管理標準）などがある場合はそれを選択する。
 - ・必要時の考慮：調達する前にその必要性を十分に考慮すること。
 - ・トップアイテムには必ず環境配慮設計がなされていること。
 - ・材料・部品・製品の生産経路から発生するまでの段階で、下記の環境に配慮した取組がなされていること。
- 2) 環境負荷への配慮
 - 電気消費量の削減 電気や人の稼働に使用電力を必要とする製品の削減し削減すること
 - 省資源 小容量、軽量化等使用電力の削減がなされていること
 - 省エネルギー 消費電力の削減等エネルギー消費が少ないこと
 - 天然資源への配慮 再生可能な天然資源は持続可能な限り利用すること
 - 長期使用性 製品の寿命の延長やメンテナンスの容易な設計が可能なこと
 - リユース可能性 再利用可能な設計、使用済み製品の回収システム等があること
 - リサイクル可能性 リサイクルしにくい素材を用いている等、リサイクルが可能なこと
 - 再生材料の利用 再生材料や使用済みの部品を多く用いていること
 - 処理処分の容易性 廃棄されるまでに有害物質を含まない等、処理が容易な設計がなされていること
- 2) 梱包基準
 - ・特定の商品に適用する基準に則り定め、これに適合する商品を選定すること。
 - ・梱包基準は「梱包・消耗品・消耗品」等機器部品・消耗品・消耗品
- 3) 取引先選定時の配慮事項
 - ・環境法に積極的に取り組んでおり、事業を安定させること。
 - 環境マネジメントシステム（ISO14001）の導入状況が確認されていること
 - 省資源、省エネ、化学物質管理の取組が確認されていること
 - 梱包材についても環境に配慮していること
 - 環境情報を積極的に公開していること
- 4) 運用における留意点
 - ・調達基準に違反し、必要に応じて対応する。
 - ・特定商品については該品を優先的に調達する。
 - ・事業活動に必要と認められる場合は、グリーン調達を推進する旨を明示することにより、グリーン調達の推進に努めること。
 - ・調達基準に違反し、必要に応じて対応する。

グリーン調達に関しては、上記のほか調達基本方針や適用範囲、調達基準ガイドライン等を定めています。またこのガイドラインに基づいて文具類等の調達ガイドラインも別に策定されています。

木材調達

ピアノの心臓とも言われる響板には厳選されたアラスカのスプルースが使われます。樹齢150～400年、高さが60mにも達する針葉樹の大木です。ピアノの響板には地上6～20mの部分で木目がまっすぐかつ「ふし」のない所しか使えません。

このような貴重な森林資源の保護を念頭に、企業として木材のグリーン調達に取り組んでいます。

木材調達ガイドライン（2006年6月開示）

2006年に持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化しました。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。

 **カワイ 木材調達ガイドライン**

カワイ地球環境委員会

カワイは持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する。木材のグリーン調達を推進する。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する。木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



アラスカのスプルース
樹齢250～260年

音環境を楽しむために

消音型グランドピアノ

“ANYTIME (エニタイム) X”

消音型グランドピアノ“ANYTIME (エニタイム) II”をモデルチェンジした“ANYTIME X”を発表しました。

“ANYTIME シリーズ”は、夜間など音を出せないときに、デジタル音源に切り替えて、ヘッドホンで演奏を楽しむことができる環境配慮型アコースティックピアノです。

グランドピアノ『ANYTIME X』では、ハンマー検出型の新センサー「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」をグランドピアノ用に新開発し、消音時においても、通常時と変わらない鍵盤のタッチ感を実現しました。

デジタル音源には、「88鍵ステレオサンプリング」「ウルトラ・プログレッシブ・ハーモニック・イメージング」による優れたピアノ音を搭載。「響板スピーカーシステム」を搭載したATX-fタイプでは、響板がデジタル音を増幅させることで、アコースティック感のある響きが得られるとともに、音量調節が可能になります。



■製品の特長

- 1) グランドピアノ用に新開発した「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」採用
- 2) グランドピアノにふさわしい、高品位デジタル音源
- 3) ヘッドホンなしで、電子音の再生・音量調節が可能な「響板スピーカーシステム」搭載 (ATX-f)
- 4) 操作性・視認性に優れた「スライド式スイッチパネル」採用
- 5) 音色数 22、最大同時発音数 192 音、レコーダー機能強化などデジタル音源の特性を生かした機能も充実

<カワイのハイブリッド製品>

世界一のピアノづくりをめざして、培ってきたノウハウ。

奏でる喜びをたくさんの人に伝えるため、進化させてきたデジタル技術。

その両方を追求するカワイだからこそ、できることがあります。

当社では、両方の技術を融合させて開発された新しいハイブリッド製品には、このマークを製品・カタログ等に表示します。



新開発の吸音パネルを標準装備

防音ルーム「ナサール ユニットタイプ M シリーズ」

防音ルーム“ナサール”は、音響性能と居住性の両立を図った、よりよい音環境を楽しむ空間として、楽器防音室にとどまらず、書斎や AV ルームとしてもご利用いただけます。

「ナサール ユニットタイプ M シリーズ」は、新開発の吸音パネルを採用し、楽器や目的に合わせて、防音ルーム内部の響きを調節できるようにしています。また、新開発の防音引き戸をオプションで採用していますので、扉の開閉スペースが気にならない、自由なレイアウトが可能となります。

サイズは、ユニット・スタンダードタイプでは、0.5 畳から 4.9 畳までの広さ 12 タイプに、それぞれ 2 種類の天井高さをご用意。

加えてユニット・カスタムタイプでは、1.2 畳から 4.9 畳の間で 11cm 間隔できめ細かくサイズ対応しています。



■製品の特長

- 1) 吸音特性の異なる 3 種類の吸音パネルを標準装備
- 2) 扉の開閉スペースが気にならない防音引き戸をオプション採用
- 3) さらにきめ細かいサイズ対応が可能となったカスタムタイプ
- 4) 掃除・交換の容易なタイルカーペット仕様

ドラム練習に最適

高遮音防音ルーム“ナサール UWS タイプ”

“ナサール UWS タイプ”は、従来“ナサールオーダータイプ”の特注対応としていた、ドラムやエレキベースなどの大音量の楽器練習室や、高い遮音性能を要求される録音ブースなどを、解体移設が容易なユニットタイプで対応可能としたものです。

新設計の独立二重壁構造により、Dr-50 (-60dB / 500Hz) の高い遮音性能を実現。またドアには、二重ガラス窓を備えていますので、内部の様子も確認することができます。

昼夜問わず、楽器の練習をしたい方にも最適です。

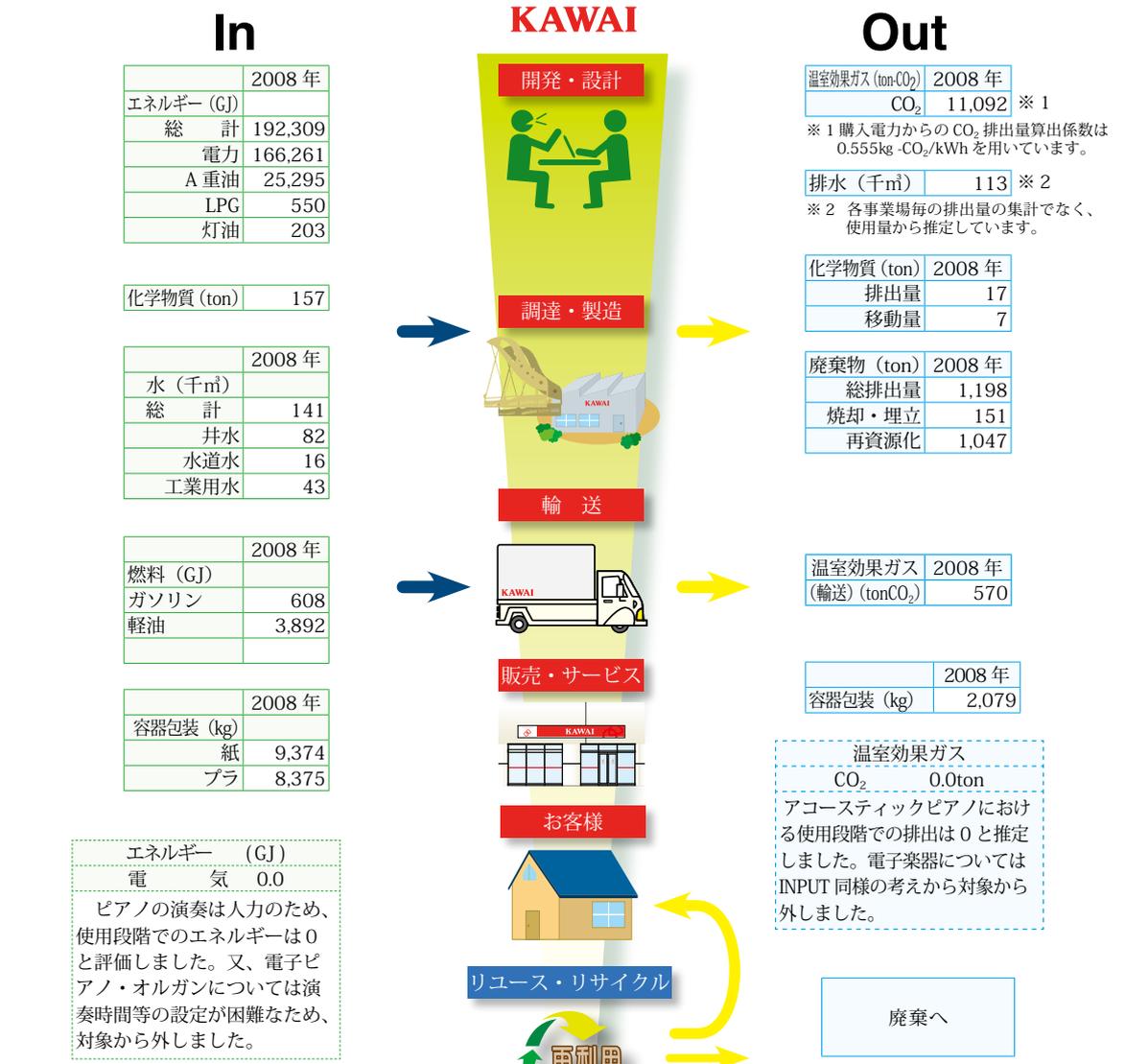
■製品の特長

- 1) 独立二重壁構造により、高い遮音性能 (Dr-50) を実現
- 2) パネル組立方式のため、短工期 (最短 1 日) を実現し、解体移設も容易
- 3) 低音のこもり感を改善し、快適な室内音響空間を提供



カワイグループは、企業活動が環境に及ぼす影響を認識し、事業が環境に与える負荷を数値で把握することが活動の第一歩と考えております。

カワイでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、その及ぼす影響を軽減するために開発・設計・調達・製造から輸送、さらにお客様が製品を使用・リサイクル・廃棄に至るまでの各段階でどれくらい資源・エネルギーを使用しているか、またどのような環境負荷が発生しているかについてデータ集計を行っております。今後もデータ把握の対象事業を広げ環境負荷の低減に取り組めます。



2008年	
エネルギー (GJ)	
総計	192,309
電力	166,261
A重油	25,295
LPG	550
灯油	203

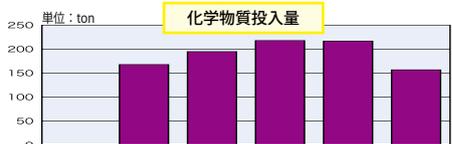
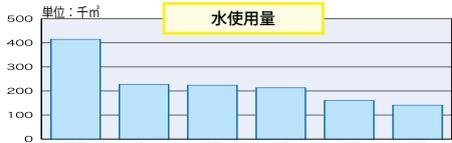
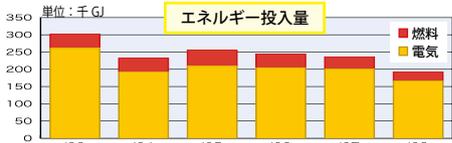
化学物質 (ton)	157
------------	-----

2008年	
水 (千m ³)	
総計	141
井水	82
水道水	16
工業用水	43

2008年	
燃料 (GJ)	
ガソリン	608
軽油	3,892

2008年	
容器包装 (kg)	
紙	9,374
プラ	8,375

エネルギー (GJ)
電 気 0.0
ピアノの演奏は人力のため、使用段階でのエネルギーは0と評価しました。又、電子ピアノ・オルガンについては演奏時間等の設定が困難なため、対象から外しました。



2008年	
温室効果ガス (ton-CO ₂)	
CO ₂	11,092 ※1

※1 購入電力からのCO₂排出量算出係数は0.555kg-CO₂/kWhを用いています。

排水 (千m ³)	113 ※2
-----------------------	--------

※2 各事業場毎の排出量の集計でなく、使用量から推定しています。

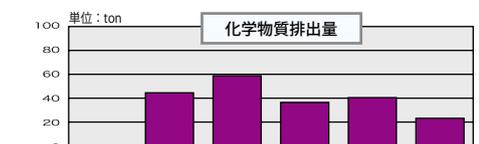
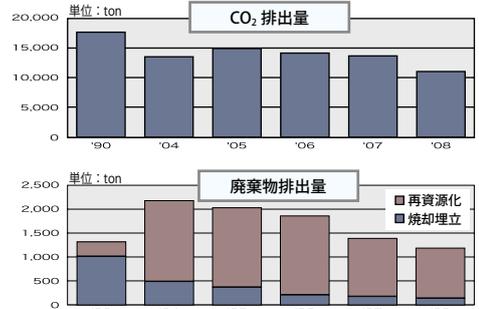
2008年	
化学物質 (ton)	
排出量	17
移動量	7

2008年	
廃棄物 (ton)	
総排出量	1,198
焼却・埋立	151
再資源化	1,047

2008年	
温室効果ガス (輸送) (tonCO ₂)	570

2008年	
容器包装 (kg)	2,079

温室効果ガス CO₂ 0.0ton
アコースティックピアノにおける使用段階での排出は0と推定しました。電子楽器についてはINPUT同様の考えから対象から外しました。



着実な成長戦略への転換をめざして

第2次中期経営計画

経営改善計画から新中期経営計画と延べ5年間にわたる経営計画の遂行により、企業体質の改善が進み、第2次中期経営計画では着実な成長戦略への転換をめざします。

1. 計画期間

2007年4月1日～2010年3月31日

2. 基本方針

- 1) 経営構造の革新
自立型組織体制の構築と情報システム整備により、経営構造を事業単位に明確化し、外部環境変化に迅速に対応する。
- 2) 持続可能な成長
強みを最大限に活かし、成長分野への経営資源の投入により主力3事業（楽器、教育関連、素材加工）で着実な成長を図る。
- 3) 恒常的な利益確保
安定的に利益を確保し、株主への利益還元により企業価値の向上を図る。

3. 経営戦略

主要施策として、組織と情報システムの再構築を行い、業績把握の迅速化を図り、グローバル化した生産、販売活動において外部環境変化にタイムリーに対応する経営体をめざします。

- 1) 自立型組織体の構築
事業セグメントごとに経営体として自立可能な組織を構築します。
- 2) ERPの導入によるスピード経営の実現
複雑化、分散化した基幹系情報システムを統合し、経営の効率化をめざします。
- 3) 新人事制度の導入
新たな人事制度を導入します。
特に人材育成を強化し、技能伝承の課題解決に注力します。

事業別重点戦略

1. 楽器事業

◇ピアノ

市場の二極化に対応するために、SKシリーズの拡販を軸とした、ブランド力の確立と、海外生産によるコストダウンにより競争力を高める。

◇電子楽器

生産では海外に自社生産拠点を新たに立ちあげ、販売では国内、海外ともに販売網を拡大する。

◇ハイブリッドピアノ

アコースティックと電子の技術を融合したハイブリッドピアノの開発により、当社の強みを発揮。

2. 教育関連事業

音楽教室事業と体育事業において、ともに生徒数の増加を図る。体育事業は年少人口向け体育教室の生徒数増加を図る一方、健康ブームで関心が高まっている生産年齢人口、高齢人口向けの健康増進事業を拡大する。

3. 素材加工事業

金属事業を中心とした積極投資により増収・増益をめざす。

4. 情報関連事業

事業内容をハードウェア販売中心からソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、保守までを一貫して顧客に提供するソフトサービス事業へシフト。

5. その他の施策

CSR経営を重視し、(1)法令順守、(2)内部統制、(3)環境への配慮、(4)社会貢献等に取り組みます。

4. 連結業績目標

売上高740億円、営業利益40億円、自己資本率40%超をめざします。

第2次中期経営計画

単位：億円

	初年度計画	第2年度計画	最終年度計画
売上高	675	702	740
営業利益	25	30	40
経常利益	22	27	37

2007.05.15 現在

2009年3月期の事業概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国に端を発した世界的な金融危機が实体经济に急速に波及し、未曾有の経済危機の様相を呈しており、さらには急激な円高等による先行き不透明感から雇用環境や個人消費が急速に悪化しました。

このような経営環境のもと、楽器事業においては高級グランドピアノ「Shigeru Kawai」シリーズをはじめとした高付加価値製品の販売とハイブリッド消音型ピアノによる競争力向上、教育関連事業においては受注拡大とコスト削減に取り組みましたが、売上高61,593百万円、営業利益674百万円、さらに為替差損もあり、経常損失146百万円となり、計画達成には至りませんでした。

しかし、同計画で掲げました諸施策につきましては、ほぼ計画通りに実施しております。

単位：億円

	計画	実績	計画比
売上高	702	615.9	▲86.1
営業利益	30	6.7	▲23.3
経常利益	27	▲1.4	▲28.4

各戦略の進捗状況

戦略の実施状況の一部をご紹介します。

- ・国内ピアノ生産工程を竜洋工場に統合
- ・2008 上海国際楽器展覧会出展
- ・カワイ精密金属 浜松事業所の建物を増設
- ・海外楽器生産工場が次々に ISO 9001 を取得

国内ピアノ生産工程を竜洋工場に統合

竜洋工場敷地内に塗装工場を新設し、舞阪工場に残っておりました塗装工程を移転しました。これにより、塗装部品の工場間輸送が解消され、生産管理の一元化が可能となりました。また、塗装工場とともに製品出荷・部品倉庫を新設したことにより、工場内の製品・部品の流れの効率化を図りました。

当社は塗装工程の移転により、国内のピアノ生産工程を全て竜洋工場に集約させ、今後、“マザーファクトリー”そして“ピアノづくりの原点”としての役割を一層明確化させてまいります。



2008 上海国際楽器展覧会出展

2008年10月、上海において開催された2008上海国際楽器展覧会に、中国でも高い人気を誇るグランドピアノ「Shigeru Kawai」を始め、グランドピアノ型多機能電子ピアノ「CP207」など多数の製品を出展しました。

特に、同年5月に宜昌・三峡ダムにて行われた北京オリンピック記念コンサートにおいて実際に使用されたフルコンサートピアノ「EX」の周りには、試弾や記念撮影をする人が後を絶たず大いに賑わい、当社製品を十分アピールすることができました。



カワイ精密金属 浜松事業所の建物を増設

近年、半導体や自動車電気部品の高付加価値化が進み、カワイ精密金属株式会社が生産する高精度な圧延異形板への需要が高まり、同社の生産能力も限界に近づいておりました。

そこで2008年9月より、生産ラインを増設することによりリスクを分散し、安定供給を図るため、同社浜松事業所内に新工場を建設しておりましたが、本年4月に完成し、順次、設備導入を進めております。



海外楽器生産工場が次々に ISO 9001 を取得



2005年に竜洋工場において品質マネジメントシステム ISO9001 の認証を取得して以来、全社的な製品品質の向上をめざし、海外楽器生産工場における ISO9001 認証取得を推進してまいりました。

2008年9月に中国におけるピアノ部品の生産子会社である河合楽器（寧波）有限公司が、同年12月に電子楽器生産工場のカワイインドネシア第3工場が、さらに2009年4月にはピアノ生産工場のカワイインドネシア第1・第2工場がそれぞれ認証を取得しました。

当社楽器生産は、これまでグローバルに展開してまいりましたが、国内ピアノ生産の竜洋工場に続き、海外生産工場の認証取得により、今まで以上に高品質な製品生産体制が整いました。



継続的に企業価値を高めていくには

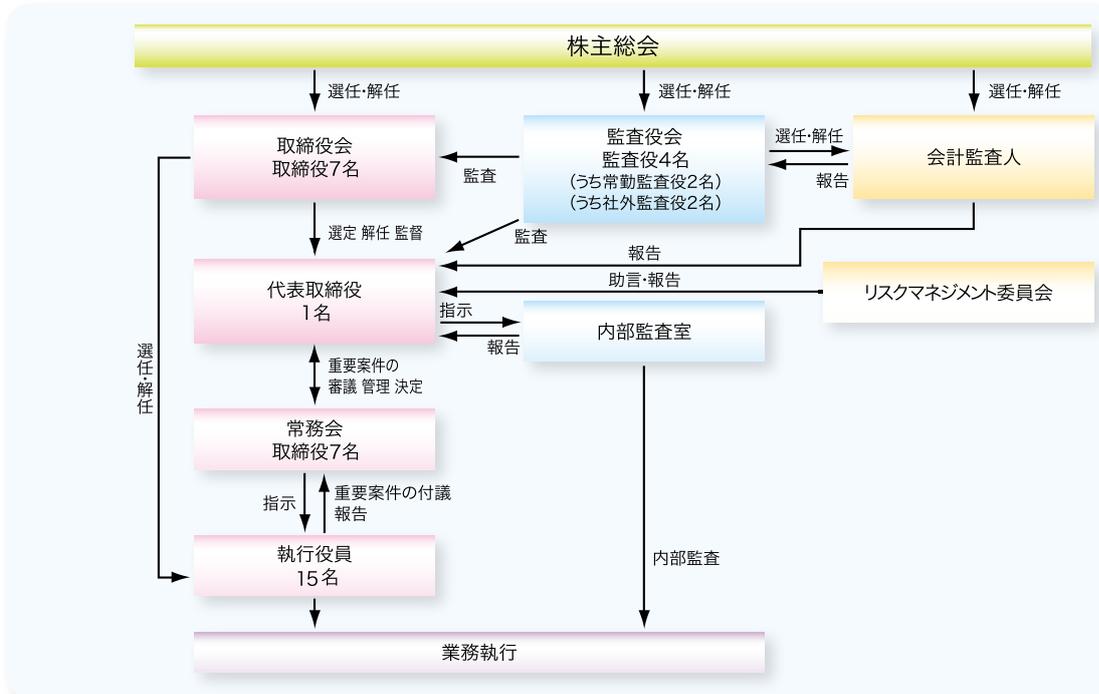
コーポレートガバナンスの充実が最も重要な経営課題と捉えています。

コーポレート・ガバナンスの状況

当社は継続的に企業価値を高めていくうえで、コーポレート・ガバナンスの充実を最も重要な経営課題としてとらえており、そのためには株主・投資家の皆様、お客様、取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーから信頼される経営姿勢が重要であると考えています。

その実現に向け、当社では株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、経営体制の改革、内部統制システムやコンプライアンス体制の整備等の様々な方策を実現させるとともにタイムリーな情報開示により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しています。

- ・ 取締役会：7名で構成（社外取締役は0）
- ・ 監査役会：社外監査役2名を含む4名で構成
- ・ 2002年4月より執行役員制度を採用（現在15名）
- ・ 2005年6月より執行役員制度を改編し、取締役にも執行役員を兼務させる体制とし、全社的課題への対応力の強化を図るとともに、業務執行における責任の明確化および指揮命令システムの充実を図りました。
- ・ 経営会議体として全社的課題を審議するステアリング・コミッティ、戦略課題を全社の見地で審議する全社戦略会議等を設置して戦略モニタリング・コントロール機能を確保しています。
- ・ 内部監査：「内部監査室」を設置し、当社グループの業務活動全般に関して、業務執行が適法、適正かつ合理的に行われているかどうかを監査するとともに、会社資源の活用状況、法令・社内規程の順守状況についての監査を行っています。



内部統制システム整備の状況

2006年5月に取締役会にて「内部統制システムの構築に関する基本方針」を決議し、内部統制システムの整備を推進しています。

当社は内部統制の基本を職務分掌、職務権限、業務プロセス、その他の各種規程・基準においています。内部監査部門は業務執行部門ならびに関係会社の監査を通じてこれらの基本に則って業務が遂行されていることを確認し、改善すべき点の指摘を行っています。また、法律問題については、分野ごとに恒常的に法律事務所と顧問契約を締結した上で適法性の確保に努めています。

反社会的勢力排除に向けて

反社会的勢力を社会から排除していくことは、治安対策上重要なことであり、企業にとっても社会的責任の観点から必要であり、また、反社会的勢力が従業員を含めた企業自身に多大な被害を生じさせるものであることから、企業防衛の観点からも必要なものです。

このような観点から、当社は反社会的勢力による被害を防止するため、コンプライアンス体制及び内部統制システムの一環としての体制整備に努めています。

リスク管理体制の内容

当社のリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止し、またリスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会を設置するなど機動的な対応に努めています。

主なリスク管理に関する委員会

リスクマネジメント委員会

カワイグループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に代表取締役へ報告。傘下に下記の委員会を設置しています。また、不測の事態が発生した場合には「緊急対策本部」を直ちに設置し迅速な対応と損害拡大の防止にあたります。

●地球環境委員会

カワイグループは1994年に地球環境委員会を設置し、地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。地球環境委員会ではカワイ地球環境憲章、カワイ環境方針、グリーン調達ガイドライン、木材調達ガイドライン等を制定。また環境に関する法令の順守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

●海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

●中央防災対策委員会

カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

●中央安全衛生委員会

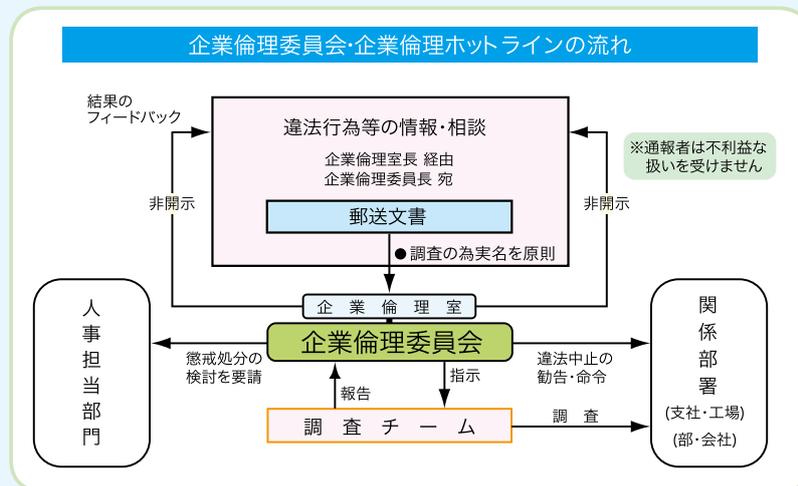
カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

●企業倫理委員会

コンプライアンス経営を推進するため、法令順守に加え社会的な規範をも包含したコンプライアンス要綱（カワイ倫理規範、倫理行動規準を含む）を制定するとともに弁護士等外部有識者を加えた企業倫理委員会を設置しています。また企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めています。

●製品安全対策委員会

万が一、市場に出た当社の製品に安全上の不具合があり、それが原因でお客様の生命身体に危害が及んだり、その可能性があると思われるときに、お客様への告知、行政機関への報告、製品の回収といった対策を迅速に実行し、お客様への被害を最小限に止める諸活動を行っています。



株主・投資家の皆様と共に

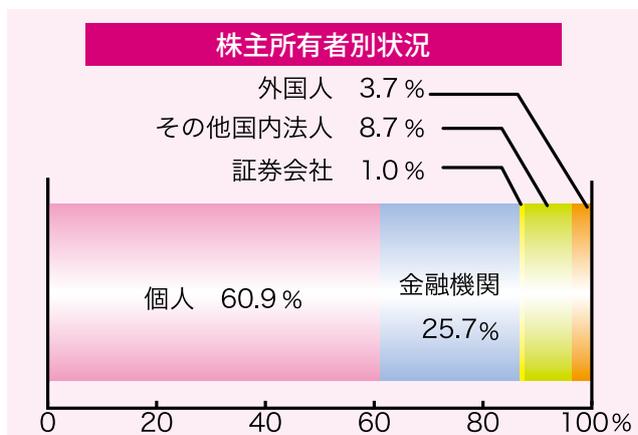
株主・投資家の皆様への IR 活動に取り組んでいます。

株主の所有者別状況

2009.3.31 現在、当社の総株主数は 11,766 名で、個人が 60.9%、金融機関・証券会社が 25.7%、その他国内法人が 8.7%、外国人が 3.7%の株式を保有しております。

株式の状況

発行可能株式総数	普通株式	342 百万株
発行済株式総数	普通株式	86 百万株
株主総数	普通株式	11,766 名



◎個人投資家対象 IR 説明会「ノムラ資産管理フェア」

2008 年 12 月に、東京国際フォーラムで開催された「第 11 回ノムラ資産管理フェア」に、2007 年に続き出展しました。

今回の出展では、当社の事業概況や今後の成長戦略について、約 10 分間にまとめたミニ会社説明会を 30 分おきを実施し、多くの投資家の皆様にお立ち寄りいただくことができました。説明会を聞かれた方々には簡単なアンケートにお答えいただいております、当社への要望等、その結果を当社 IR 活動に生かしております。

* IR 活動… Investor Relations 株主投資家向け広報活動



◎事業報告書

株主の皆様には、事業報告書を年 2 回お送りしています。直近の財務情報に加え、トップのコミットメントや当期のトピックス、会社概況などをお伝えしています。



情報の開示

◎ IR サイト

ステークホルダーの皆様にかわいの経営戦略や財務内容を開示し適切な企業価値へと結びつける活動 (IR) の手段として当社ホームページに IR サイトを開設しています。



<http://www.kawai.co.jp/ir/>

音楽文化の担い手として・・・

社会貢献活動

さらに広く、より深く音楽文化を醸成するために、カワイは楽器メーカーとして優れたハードづくりを採求するとともに音楽文化の育成やレベルアップといったソフトに関する活動を、長年続けています。音楽から生まれる感動をさらに多くの人へ、より深く伝えたい。……カワイの熱き想いは、さまざまな音楽シーンで着実に実を結んでいます。

文化・芸術への貢献

- カワイ音楽振興会
- カワイコンサート
- 日本ショパン協会への支援
- クロイツァー記念会への支援
- 日本・ロシア音楽家協会への支援
- 日本フーゴ・ヴォルフ協会への支援
- 日本シマノフスキ協会への支援 など

カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の普及と向上を目指して1963年に設立。海外の著名な演奏家、教育指導者を数多く招聘し、リサイタルを開催するほか、公開講座、個人レッスン、講演会など多彩な催しを企画実施しています。

カワイコンサート

日本中のより多くの方々によりよい生の音楽を。このポリシーのもと、1971年からスタートした「カワイコンサート」は全国各地で2千数百回以上におよぶ公演を実施しています。

ヨーロッパ・カワイコンサート

1991年に始まったヨーロッパ・カワイコンサートは、クレフェルト市キャンパスホールで行われています。2006年には200回を数え、今後も引き続きコンサートを開催してまいります。

日本ショパン協会への支援

ポーランドのショパン協会との交流の下に設立された日本ショパン協会の活動を多角的に支援。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーデション等の活動を行っています。



連絡先：カワイ音楽振興会 TEL:03-3320-1671

教育・教室としての貢献

- カワイ音楽教室・カワイミュージックスクール
- カワイこども英語教室・カワイ絵画造形教室
- カワイ体育教室・いきいき健康音楽
- カワイ音楽学園 など

カワイ音楽教室

当社が運営するカワイ音楽教室は、音楽文化の普及を目指して1956年（昭和31）に第1号教室を開設、以来50年にわたり、音楽教育を通じて多数の音楽愛好者を育成し、現在では日本全国に5,000を超える直営の教室を運営しています。レッスンコースは、1歳児を対象とした「クーちゃんランド」に始まり、「おとなのミュージックスクール」まで、年齢やレベルに合わせて多彩なコースが設定されています。



カワイミュージックスクール

平均寿命の伸長に伴い、中高年の人々の生涯学習や余暇活動に対する関心が年々高まっています。カワイでは、こうした社会ニーズに対応し、ピアノ、フルート、バイオリン、大正琴、日本唱歌など、40種以上に及ぶ大人のための音楽教室を運営しています。いずれも自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講でき、またレッスンの回数や形式が選択できるなど、個性に合ったレッスンが受けられることから、多くの受講者を集めています。



カワイ絵画造形教室「手を使い、心と頭を育てる造形活動」

カワイ絵画造形教室は、豊富な素材をふんだんに使ったさまざまな造形表現活動を通して、子どもたちが創造力や人間らしい心を育みながら「生きる力」を身につけていくことを目指しています。



カワイ英語教室「生きた英語を体験しよう」

カワイ英語教室は、ゲームやアクションを通して、子どもたちが楽しみながら「生きた英語」を身に付けます。そしてコミュニケーションの手段としての英語を通して自分を伝えたい、相手を知りたいという心を満たし、豊かな人間性を育みます。



「心とからだのハーモニー」をモットーに、全年齢の健康づくりをサポートします。

カワイ音楽教室、鍵盤演奏の確かな基礎を育む 3・4歳からのグループコース「ピコルわーど」

当社が運営するカワイ音楽教室は、3・4歳児を対象としたグループコース「ピコルわーど」を新設しました。

カワイ音楽教室のグループコースでは、子ども達の豊かな創造性を育むリトミック教育を取り入れ、音楽に合わせて弾んだり、揺れたり、体全体を使った様々な動きを経験できます。



「4歳のためのピコルわーど」レッスン内容

■音楽的な鍵盤学習のためのリトミック

音楽的な鍵盤学習のために、「歌う」「聴く」「動く」「リズムに乗る」「自ら創作する」に加えて「演奏するためのリトミック活動」を取り入れます。

■自分で読譜し両手で鍵盤演奏

音楽的アプローチによって、「生きた音楽」を味わいながら、鍵盤演奏のための明確な学習目的を、一つ一つこなし習熟していきます。

■読譜・記譜の学習

冒頭から「五線譜の読解」と「リズムの理解」による読解演奏の準備に入ります。テキストや副教材を、読み、歌い、描き、意欲がはぐくまれるようなアプローチで習得していきます。

■音楽を味わって演奏表現

自分で読譜して、自分なりのイメージを抱いて、楽譜に記されている“音楽”を味わって演奏表現することを目標としています。



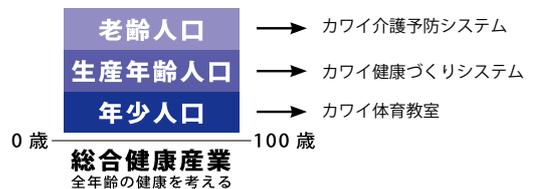
※リトミックとは

スイスの作曲家エミール・ジャック・ダルクローズ (1865 ~ 1950) によって創案された音楽教育方法で、脳や運動などの生理学の観点から研究を積み、音楽を身体表現することが、演奏をより表情豊かなものへ導くという考えを基本としています。日本には大正時代に演劇や舞踊の教育として入り、その後幼児教育で重視されました。

リトミックという名称の語源は、ユーリズミックス (Eu-rhyth-mics [英])、ラ・リトミック (La Rythmique [仏])、リトミック (Rhythmik [独]) から由来しており、訳語としては「律動的」あるいは「韻律的」という意味です。

カワイヘルスプロモーションサポートシステム

当社は、1969年から、カワイ体育教室をスタートし、健康づくりのサポートを全国で展開してまいりました。今年で40周年を迎えることができ、この間のキャリアとノウハウを、社会に広く公開・提供したいと考えています。未就園児から高齢者まで、楽しみながら健康の維持・増進を図り、しかも測定データや最新機器を駆使し科学的にサポートする当社独自の「カワイヘルスプロモーションサポートシステム」により総合健康産業として、さまざまなステージでの、健康づくりに役立ちたいと考えています。



カワイ体育教室

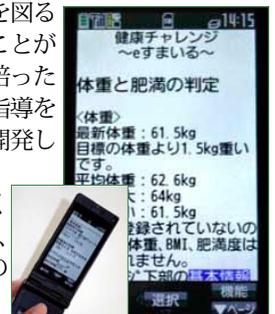
2歳児からの体育コースを中心に、器械体操、新体操、サッカー、水泳などのスポーツコースも展開。「心とからだ」をバランスよく育み、人生を健康で楽しく生きていくための基礎を身につけます。



カワイ健康づくりシステム

2008年度4月より、医療保険者（国民健康保険・健康保険組合など）に対して特定検診・特定保健指導が義務付けられました。これは「腹囲」「血圧」「脂質」「喫煙の有無」を調査し生活習慣病の原因となるメタボリックシンドロームを早期に発見し改善を図ることで、医療費の高騰を抑えることが目的です。カワイはこれまでに培ったノウハウをベースに、特定保健指導をトータルに支援するシステムを開発しました。

携帯電話を使用した健康づくり支援システムもスタートさせ、企業や自治体での健康づくりのサポートも行っています。



カワイ介護予防シスム

カワイと筑波大学との共同開発による、科学的根拠に基づくプログラムの筋力トレーニングと遊びプログラム（調整力）を複合した2ウェイ方式にて支援・介護を必要としない健康寿命を伸ばすことをねらいとしています。

参加者の変化を随時把握する「体力測定」を導入しています。



地域社会への参加

各サイトそれぞれにおいて、地域社会へ参画しています。
積極的に地域住民及び多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

竜洋工場

1. 工場見学

地域の学校の環境教育の一環としてなど、竜洋工場では多くの工場見学者を受け入れています。

小学校や環境団体など、2008年度の見学者総数は3,151名でした。

見学後に感想をお寄せいただくことも多く、市内の小中学校からは、3クラス89名分の感想文を綴じたものを送っていただきました。

2. 「工場廻りクリーン作戦」

環境美化活動の一環として、工場周辺の空缶やゴミなどの清掃活動を行っています。



メルヘン楽器

メルヘン楽器では環境方針に基づき、地域環境活動として、地域の主要道路の清掃活動を行っております。



カワイ精密金属

カワイ精密金属 浜松工場では、2009年6月18日に工場内と周辺の草取り、ゴミ拾い等の清掃活動を行いました。

今後は、環境維持活動の一環として、恒例行事としていきたいと思っております。



カワイハイパーウッド

カワイハイパーウッドでは、地元の住民の方を招待し、コンサートを開きました。
また、協賛テーマとして森林保護活動の募金を行い、募金については「カワイの森育成会」に寄託しました。



2008 ハイパーふれあいコンサート
森林保護活動募金協賛

入場無料！
高年を近隣の高齢へ感謝を込めて
コンサートを企画いたしました。
お賞賛のご声援ください。

日時 11月23日(日)
12:30開場 13:00開演
場所 株カワイハイパーウッド特設会場
浜松市東区中起町3-4-4

プログラム
第一部 ピアノソロ
ピアニスト 米澤真浩さん
2007年度 日本楽器協会の賞状
ピアノ部門2位入賞
第二部 プラスジャズセッション
インフィニティII

お問い合わせ
株カワイハイパーウッド 生産管理課 鈴木寛 1F F020
TEL:053-434-0551

カワイインドネシア

カワイインドネシアでは、工業団地内にある他の日系企業4社と合同で、企業の社会的責任(CSR)活動の一環として、近隣の中学校2校の生徒約240人を招いて工場見学会を行いました。

社員によるピアノ演奏も披露し、カワイのピアノの音に触れていただきました。
なおこの模様は、地元の新聞に掲載されました。



・Daily Jakarta Shimbun 2009年(平成21年)6月26日 金曜日 8

KIICで初の工場見学会
近隣中学生240人を招待

忘れられない思い出に
カワイインドネシアの工場見学会の様子が、地元新聞に掲載された。

カワイインドネシアの工場見学会の様子が、地元新聞に掲載された。近隣の中学生約240人を招待し、工場内を案内し、カワイのピアノ演奏も披露した。この模様は、地元新聞に掲載された。

カワイインドネシアの工場見学会の様子が、地元新聞に掲載された。近隣の中学生約240人を招待し、工場内を案内し、カワイのピアノ演奏も披露した。この模様は、地元新聞に掲載された。

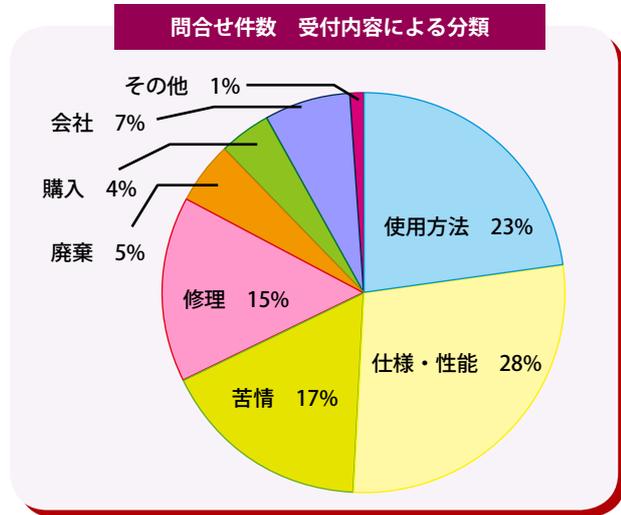
多くの皆様とのコミュニケーションを大切にします。

お客様窓口

◎CS推進室

お客様との相談窓口をカワイQSS (Quick Service Station) と名づけ誠実な対応と迅速な対応を行うべく1971年よりその組織を発足させ活動しています。カワイQSS組織は生産統括部CS推進室に本部を置き各支社に支部を配置しカワイのお客様相談窓口としての役割を果しています。

お客様からの使用方法など様々な相談の受付を行っています。



◎調律サービス部

お客様のピアノの主治医“調律師”の技術集団。「ピアノは生きています」というと驚かれるでしょうが、ピアノには木材・羊毛・皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとても敏感で、温度や湿度の影響をまともに受けてしまうのです。またピアノの大部分を占める木材は常に呼吸をしている、まさに“生命体”なのです。そしてピアノほどデリケートなメカニズムを持つ楽器は他に無いとまで言われています。そこで私達が健康管理をするようにピアノにも“調律”という名のメディカルチェックが必要なのです。

カワイの調律師たちは厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。

ホームページでの開示

カワイのホームページではトップページから「会社情報」へ。「会社情報」から「環境への取り組み」に進んでいただけます。過去の環境報告書もご覧いただけます。

<http://www.kawai.co.jp>



環境社会報告書の継続的発行

カワイでは2001年より毎年、環境報告書を発行しています。2004年からは社会的側面についても記載し、多くの皆様に持続可能な社会の実現に向けたカワイの活動を知らせていただくよう情報提供を続けてまいります。



資料 環境負荷サイト別一覧

			1990	2004	2005	2006	2007	2008	増減率	
			参考	基準年				基準年比		
竜洋工場 静岡県磐田市 事業内容：ピアノ製造 敷地面積：168,218㎡	INPUT	電気	GJ	30,829	38,305	39,950	45,646	53,648	49,621	8.7%
		燃料	GJ	3,932	16,286	19,111	17,012	17,313	14,101	-17.1%
		水	千㎡	1,568	36.2	34.3	34.2	40.8	29.9	-12.6%
		化学物質	ton		33.7	36.6	28.2	30.9	31.0	9.9%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,991	3,284	3,575	3,743	4,209	3,578	-4.4%
		化学物質	ton		21.6	23.0	12.7	12.2	9.9	-22.0%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	89.3	152.5	38.6	31.8	23.5	23.5	-26.1%
		廃棄物 再資源化	ton	9.0	418.1	444.4	497.9	602.4	605.1	21.5%
舞阪事業所 静岡県浜松市西区舞阪町 事業内容：ピアノ部品製造 敷地面積：42,218㎡ ※ 2009年3月 竜洋工場竜洋工場へ統合	INPUT	電気	GJ	70,512	49,472	46,352	37,229	13,916	11,707	-68.6%
		燃料	GJ	24,321	11,218	11,719	8,164	3,754	2,346	-71.3%
		水	千㎡	1,762	49.2	39.4	34.1	5.5	6.0	-82.4%
		化学物質	ton		40.2	33.8	33.3	27.7	16.0	-52.0%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	5,641	3,545	3,407	2,649	1,041	818	-69.1%
		化学物質	ton		8.5	4.5	6.9	9.1	2.4	-65.2%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	348.0	153.6	64.0	68.3	29.2	26.9	-60.6%
		廃棄物 再資源化	ton	93.0	1,040.7	915.8	736.8	274.3	205.9	-72.1%
カワイハイパーウッド 静岡県浜松市東区中郡町 事業内容：自動車内装部品製造 敷地面積：15,074㎡	INPUT	電気	GJ	14,787	15,404	24,003	21,629	21,726	14,636	-32.3%
		燃料	GJ	11	5,945	7,725	6,219	6,960	4,189	-32.6%
		水	千㎡	28.6	12.6	14.7	10.6	10.1	5.7	-46.2%
		化学物質	ton		37.0	58.7	47.6	50.6	24.4	-48.7%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,250	1,279	1,883	1,645	1,702	1,111	-32.5%
		化学物質	ton		9.6	16.2	12.1	14.1	7.3	-39.5%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	218.2	114.1	188.7	78.5	81.6	58.9	-25.0%
		廃棄物 再資源化	ton	32.3	12.4	47.2	116.9	101.8	63.7	-45.5%
メルヘン楽器 静岡県周智郡森町 事業内容：電子楽器製造 敷地面積：11,583㎡	INPUT	電気	GJ	3,914	3,482	3,397	3,299	3,251	2,949	-10.6%
		燃料	GJ	74.7	14.8	14.7	11.1	11.3	10.7	-3.6%
		水	千㎡	0.60	3.8	2.70	3.02	2.70	3.4	12.6%
		化学物質	ton							
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	223	195	190	184	182	165	-10.3%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton	7.3	5.8	4.0	11.2	5.3	3.0	-73.2%
		廃棄物 再資源化	ton	0.0	85.9	75.3	114.5	63.9	39.7	65.3%
カワイ精密金属 浜松工場 静岡県浜松市北区新都田 事業内容：金属部品製造 敷地面積：26,817㎡	INPUT	電気	GJ		31,883	34,274	38,671	38,528	34,412	-11.0%
		燃料	GJ		14.9	12.6	14.1	12.8	11.6	-17.7%
		水	千㎡		20.6	21.4	20.5	17.8	17.9	-12.7%
		化学物質	ton		27.9	26.5	52.6	49.7	34.0	-35.4%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		1,776	1,909	2,154	2,145	1,916	-11.0%
		化学物質	ton		1.4	1.3	2.6	2.5	1.7	-100%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		53.9	66.4	54.3	27.8	22.6	-58.4%
		廃棄物 再資源化	ton		33.8	42.5	39.1	32.5	20.6	-47.3%
カワイ精密金属 松本工場 長野県松本市 事業内容：金属部品製造 敷地面積：14,612㎡	INPUT	電気	GJ	57,070	39,511	47,565	48,784	56,882	42,102	-13.7%
		燃料	GJ	7,132	5,373	6,359	6,350	7,350	4,744	-25.3%
		水	千㎡	42.1	92.0	98.9	100.3	74.6	70.8	-29.4%
		化学物質	ton		26.7	39.0	55.8	58.8	52.0	-6.8%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	3,674	2,579	3,097	3,165	3,686	2,679	-15.4%
		化学物質	ton		1.3	2.0	2.8	2.9	2.6	-100%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		9.0	9.9	12.1	16.9	12.0	-0.8%
		廃棄物 再資源化	ton		57.8	79.8	93.7	100.4	77.9	-16.9%
本社 静岡県浜松市中区寺島町 事業内容：本社機能、研究開発 敷地面積：6,784㎡	INPUT	電気	GJ		10,418	10,032	9,781	12,096	10,834	10.8%
		燃料	GJ		1,588	1,858	1,215	1,227	646	-46.8%
		水	千㎡		11.7	12.3	9.7	8.7	7.8	19.6%
		化学物質	ton							
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		685	682	623	752	644	3.4%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton		1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
		廃棄物 再資源化	ton		29.0	45.6	42.2	32.9	30.2	-28.4%

環境法規制 順守状況

順法への対応において ISO マネジメントシステムを採用している事業場については順法評価結果を内部監査にて確認しています。その他の事業場（カワイ精密金属、ハイパーウッド）の順守確認は環境推進室が実施しています。また環境に関する法規制の訴訟・罰金・科料はありませんでした。

第三者意見としてのコメント



東京工業大学 教授
中崎 清彦 様

本報告書は、環境に配慮した事業活動と事業活動の社会性に真摯に向き合っている河合楽器製作所の継続的な取り組みを適正に紹介するものとなっている。また、P D C Aサイクル（計画・実行・検証・対応の繰り返し）が有効に機能していることが見て取れる。

環境経営に関する記述では、環境目標として掲げている「地球温暖化防止」、「資源循環活用」いずれについても、すでに高い達成率となっているが、CO₂排出量、廃棄物排出量はともに漸減傾向が続いており、今後さらに高い達成率が期待される。個別の製品についても、例えばグランドピアノのL C AにおいてはCO₂排出量の削減効果が定量的に示されており、環境目標達成のための熱心な取り組みは高く評価される。

事業活動にともなう環境配慮では、温暖化対策、廃棄物削減・再資源化についての取り組みが掲載されている。さらに、グリーン調達推進策については、基本理念、基本方針が明示されており、資源の調達・購入に対する環境負荷低減に向けた積極的な姿勢が表れている。また、環境パフォーマンスの項では、製品の開発・設計から廃棄にいたるまでの環境負荷が定量化されており、今後さらに環境負荷を低減するときの手掛かりが得られている。

経営計画については、売上高や経常利益が昨年来の世界的な金融危機の影響を受けて苦戦を強いられはいるが、明確な経営戦略が示され、事業別重点戦略も着実に実行されていることが伝わってくる報告書になっている。また、社内の内部統制システムについても公正で透明性の高い経営体制を実現し、継続的に企業価値を高めていこうとする意欲が反映されたものとなっている。

報告書後半には社会貢献、地域的活動、情報発信などの項目にページが割かれており、企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、企業市民としての役割を果たしていこうとする姿勢が社内の共通認識として育っている様子が伝わる内容となっている。

なお、電子媒体の普及した今日の事情を考慮し、今年度から報告書はホームページにのみ公開し、紙媒体を使用しないが、紙資源の節約と作成経費の削減も兼ねた好ましい試みとすることができる。また、報告書の体裁は編集方針や目次も加わって、読みやすくなるように工夫されており、内容も丁寧であるが、字や写真が小さく、片仮名も多用されすぎていることから、今後、さらに読みやすい報告書の作成が期待される。

河合楽器製作所では環境報告書に先駆的に取り組み、やがて環境社会報告書に進化させてきたが、今後さらに一歩進んで企業の社会的責任を説明する、いわゆるC S R報告書に発展させる時期にきていると思われる。また、本報告書の内容もそれを目指して構成が工夫されている印象を受けた。よりよい報告書になるよう、今後の検討をお願いしたい。

第三者意見をいただいて

これまでの環境に配慮した事業活動と事業活動の社会性に関する取り組みについて評価していただきました。カワイブランドの確立のためにも、今後さらに活動を継続、発展させてまいります。また、紙媒体を使用せずにホームページのみで公開する方法や読みやすさについても評価していただきましたが、ご指摘いただきました文字や写真の大きさなどに関しましては、従来の冊子に比べてページ数などの制約の少ない電子媒体の特徴を生かし、より読みやすくするための工夫を進めてまいります。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、下記アンケートにご記入の上、恐れ入りますが、この頁をFAXまたは郵送して頂ければ幸いです。

カワイ 環境社会報告書 2009 へのご意見・ご感想

該当項目の□にチェックをお願いします。

Q 1 環境社会報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか？

- | | | |
|------------------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> 投資家・株主として | <input type="checkbox"/> 河合楽器と取引関係にある | <input type="checkbox"/> カワイグループの従業員・家族 |
| <input type="checkbox"/> 政府・行政機関 | <input type="checkbox"/> 環境 NGO・NPO として | <input type="checkbox"/> 報道機関 |
| <input type="checkbox"/> 企業の環境担当者 | <input type="checkbox"/> 学生 | <input type="checkbox"/> 環境専門家・教育者・研究者 |
| <input type="checkbox"/> 事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 製品のユーザー | <input type="checkbox"/> その他 () |

Q 2 環境社会報告書を何でお知りになりましたか？

- | | | |
|--|-----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ホームページ(当社・当社以外) | <input type="checkbox"/> 環境セミナー等で | <input type="checkbox"/> 新聞・雑誌 |
| <input type="checkbox"/> 営業マン・教室・先生から | <input type="checkbox"/> その他 () | |

Q 3 この環境社会報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

- | | | | |
|-------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ・報告書のわかりやすさ | <input type="checkbox"/> よくわかる | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい |
| ・内容 | <input type="checkbox"/> 充実 | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない |
| ・情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 不足である |

Q 4 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？ (いくつでも)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 表紙 | ◎社会性報告 |
| <input type="checkbox"/> カワイの事業と会社の概況 | <input type="checkbox"/> 経営計画 / 第 2 次中期経営計画 |
| <input type="checkbox"/> 編集方針 | <input type="checkbox"/> コーポレートガバナンス |
| <input type="checkbox"/> 社長コミットメント / 経営の理念 | <input type="checkbox"/> 内部統制システム |
| <input type="checkbox"/> カワイグループのあゆみ | <input type="checkbox"/> リスク管理体制 |
| <input type="checkbox"/> お客様との関係 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家の皆様とともに |
| | <input type="checkbox"/> コミュニケーション |
| | <input type="checkbox"/> 地域社会への参画 |
| | <input type="checkbox"/> 情報発信 |

◎ 環境報告

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> カワイ環境方針 / 推進体制 |
| <input type="checkbox"/> 2008 年度の環境目標と実績 |
| <input type="checkbox"/> 事業活動に伴う環境配慮 |
| <input type="checkbox"/> 温暖化対策 |
| <input type="checkbox"/> 廃棄物削減・再資源化 |
| <input type="checkbox"/> グリーン調達 |
| <input type="checkbox"/> 環境配慮製品 |
| <input type="checkbox"/> 環境パフォーマンス |
| <input type="checkbox"/> マテリアルバランス |

◎ 資料編

- | |
|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 環境負荷サイト別一覧 |
| <input type="checkbox"/> 第三者意見書 |

Q 5 環境社会報告書の内容についてのご意見や、改善するためのご提言をいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下欄にご記入願います。

(個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することは一切ございません)

お名前	ふりがな		
		男・女	年齢 歳
ご住所 (勤務先・ご自宅)	〒	—	
ご連絡先	TEL	FAX	
	E-mail		
ご職業 (勤務先・部署・役職名)			

FAX 053-457-1250

〒430-8665 浜松市中区寺島町 200 番地 株式会社 河合楽器製作所 生産統括部 環境推進室 行

KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

株式会社 河合楽器製作所

●お問合せ先

河合楽器地球環境委員会

事務局：生産統括部 環境推進室

〒430-8665 静岡県浜松市中区寺島町 200 番地

TEL 053-457-1252 FAX 053-457-1250

URL：<http://www.kawai.co.jp>